

2020年1月期 5月度 月次業績動向(連結)(2019年4月21日～2019年5月20日)

2019年6月14日

会社名 ピーブル株式会社

(https://www.people-kk.co.jp/)

代表者名 取締役兼代表執行役 桐淵真人

上場取引所: 東証kASDAQ

コード: 7865

TEL: 03-3862-2768

問合せ先: IR担当 飛田留美子

(連結業績)

科目	月次対比			《期初からの累積対比》			《過去12ヶ月累積期間の対比》		
	2019年1月期 5月度	2020年1月期 5月度	前年 同月比	18/1/21～ 18/5/20	2019/1/21～ 2019/5/20	前年 同期間比	17/5/21～ 18/5/20	2018/5/21～ 2019/5/20	前年 同期間比
注1.) 売上高	160,801	223,748	139.1%	1,101,709	994,095	90.2%	3,988,963	4,038,446	101.2%
営業利益	△ 9,044	10,255	N/A	98,178	46,340	47.2%	388,887	346,532	89.1%
経常利益	△ 6,785	10,693	N/A	98,229	46,276	47.1%	377,603	335,113	88.7%
税引前利益	△ 6,785	10,693	N/A	98,229	46,276	47.1%	377,603	335,113	88.7%

注2.)	2019年1月期 5月度	2020年1月期 5月度	前年 同月比
流動資産	1,961,568	1,847,432	94.2%
固定資産	194,469	275,603	141.7%
流動負債	277,545	245,284	88.4%
固定負債	-	-	-
純資産	1,878,492	1,877,751	100.0%
総資産	2,156,037	2,123,035	98.5%

注1) 当期より損益実績につきましては、月次業績においても前期・当期ともに連結金額にて記載しております。

注2) 貸借対照表実績数値につきましては、親会社単体の当月末日時点の実績値を記載しております。連結貸借対照表は、毎四半期決算時に記載させていただきます。

商品別売上高

商品カテゴリー名	月次対比(連結)			《期初からの累積対比》			《過去12ヶ月累積期間の対比》		
	2019年1月期 5月度	2020年1月期 5月度	当期間 構成比	18/1/21～ 18/5/20	2019/1/21～ 2019/5/20	当期間 構成比	17/5/21～ 18/5/20	2018/5/21～ 2019/5/20	当期間 構成比
乳児・知育玩具	77,615	62,445	27.9%	400,422	374,961	36.3%	1,399,043	1,336,781	33.1%
女兒玩具	16,678	10,417	4.7%	125,648	90,733	11.4%	551,335	432,625	10.7%
遊具・乗り物	18,897	24,433	10.9%	160,336	176,789	14.6%	493,191	495,289	12.3%
海外販売、その他	47,611	126,452	56.5%	415,303	351,613	37.7%	1,545,393	1,773,751	43.9%
合計	160,801	223,748	100.0%	1,101,709	994,095	100.0%	3,988,963	4,038,446	100.0%

5月度新発売およびリニューアル商品

商品カテゴリー名	商品名	標準小売価格(税別)
遊具・乗り物	「いきなり自転車 16インチ」(ブルー・グレイ・パステルピンク)計2色 「共伸びサイクル 16インチ」(ディープブルー・クランベリー)計2色	オープン価格 オープン価格

当5月度総売上高は2億24百万円となり、前年同月対比で39%増と上回りました。海外販売において第1四半期から移行した出荷が集中した事によります。

海外販売では、第1四半期で米国向け「Magna-Tiles」の商品構成の見直しを行い、当第2四半期から既製品の本格出荷を開始しています。又、中国向け「やりたい放題BIG版」等の前年には無かったまとまった出荷等も、海外販売の単月の売り伸ばしに寄与しています。

一方、国内販売では、遊具・乗り物カテゴリーにおいてはGWを通して良好な売れ行きを維持していますが、玩具市場全般で超大型GWの連休商戦10日間の前年を超えた勢いの反動が休み明けに表れ、停滞し、当社商品においては前月4月度の前倒し出荷が調整されるように当月の補充が縮小しています。

海外販売による第1四半期の出荷の遅れが響き、期初から当月までの累積営業利益の減益率は、前年に比べ依然厳しい状況ですが、当5月度の単月の売上増を含む第2四半期以降の輸出入出荷の追い上げにより、徐々に回復に向かう見通しです。